

第64期中間のご報告

# 株主通信

2008年4月1日 ▶ 2008年9月30日

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更用紙等のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(ホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
単 元 株 式 数	1,000株
公 告 方 法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法で行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部

### 【株券電子化後の株式に関するお届け先およびご照会先について】

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届け先およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届けは、上記の電話照会先をお願いいたします。

### 【株券電子化前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて】

特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。



おかげさまで 60 周年  
マナック株式会社

〒721-0956 広島県福山市箕沖町92番地  
☎084-954-3330 ☎084-957-4370  
<http://www.manac-inc.co.jp/>



マナックは、化学をベースに、技術と知識の融合により  
先端技術産業が求める機能を開発・提供する

研究開発型モノづくり会社です。



## スペシャリティケミカルをベースにより高い技術力を追求

代表取締役社長  
杉之原 祥二

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第64期第2四半期の株主通信をお届けするにあたりまして、皆様の日ごろのご支援とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

当社は「スペシャリティケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する」を企業理念に掲げ、先端技術産業に当社の「特異性の高い技術」を提供することで企業価値を高め、地域社会に貢献してまいりました。

現在、市場を取り巻く環境は、サブプライム・ローン問題を契機とした欧米経済の減速に伴い、新興国にまで不透明感が広がり、世界的な景気後退に直面しています。こうした環境の中で当社は、コア事業である難燃剤事業、ヘルスサポート事業のマーケティング力を強化し、グローバル展開と安定的な事業の拡大に注力しています。

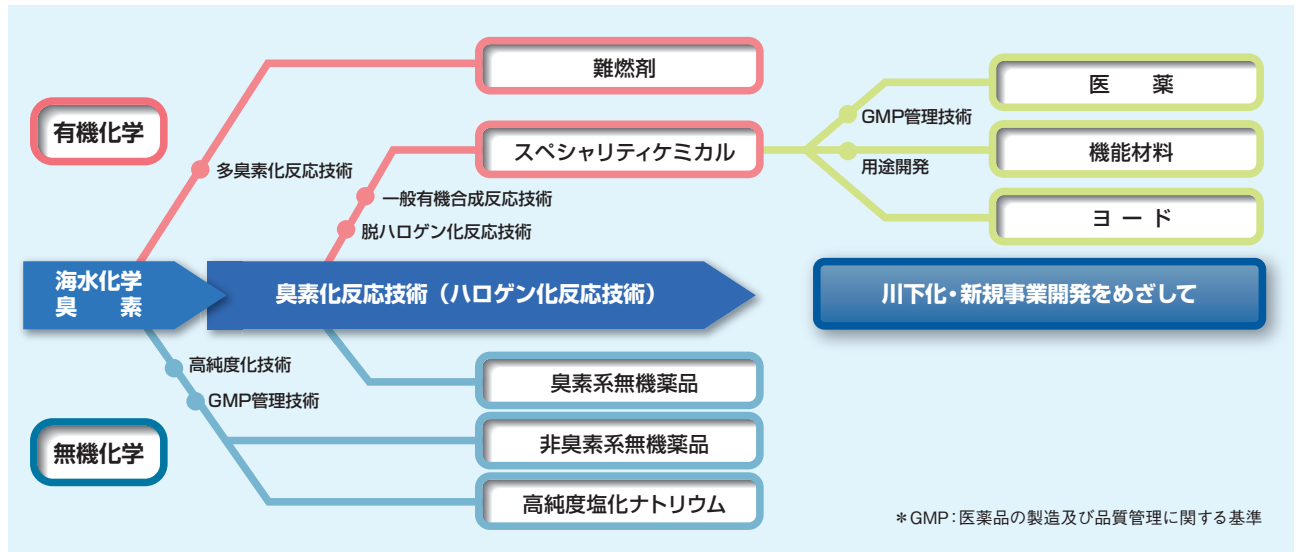
さらに研究体制の充実に努め、常に新技術への取り組みに力を入れています。2008年9月に千葉幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2008」では当社の“MIイミド”を出展しました。アジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展であるこの展示会においても、当社製品の高い技術力は注目を集めました。

非常に厳しい環境の中ではありますが、こうした取り組みを地道に積み重ね、しっかりと事業基盤を固めてまいります。2009年3月期の通期業績については、売上高82億円、経常利益2億40百万円、純利益1億40百万円を見込んでいます。

株主の皆様には、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 当社の事業領域

マナックは、臭素化反応技術を出発点に数多くの技術を生み出し、事業領域を大幅に拡大しています。



### 各事業の戦略

難燃剤事業	長年にわたって蓄積してきた開発技術、製造技術を駆使し、お客様の信頼に応え、国内市場、海外市場の拡大を目指す。
医薬事業	原薬製造プラント及び新機能開発設備の導入、更には新規開発品の拡大・企業化を視野に入れながら、自社技術の開発・充実を推進する。
ファインケミカル事業	強化した生産・開発体制を駆使して、新たな機能材料の開発・供給を本格軌道に乗せ、マナックブランドと高付加価値を追求する。
ヨード事業	最強のヨウ素化合物事業を展開するために合併事業を更に充実させ、柱となる製品群の拡大と新規製品開発により、国内市場・海外市場のシェアアップを目指す。
ヘルスサポート事業	健康支援ビジネスの構築を推進し、川下製品の開発、事業化を目指す。



63期株主通信で実施いたしましたアンケートの結果について、ご報告いたします。  
アンケートのご意見について社長がお答えします。



**Q 株価が低迷していますが、今後の業績見通しはいかがでしょうか。**



**A** 当社の株価について、株主の皆様のご期待に十分お応えできていない状況を、大変申し訳なく思っています。世界経済が景気減速、または後退を余儀なくされている状況の中で、化学業界も非常に厳しい経営環境にあります。そうした認識に立って、さらなる経営の合理化・効率化を目指し、利益重視の経営に努めます。今期の通期見通しは、年初公表しております、売上高、経常利益共に現時点では達成できる見通しであります。

**Q それでは今後の企業価値向上の戦略をお教えてください。**



**A** 現在当社は「グローバル」、「スピード」をキーワードとして変革を目指しています。従来のコア事業を強化しながら新規事業領域の開拓を進めることで、事業構造の変革を推進いたします。具体的には、これまで国内市場を対象にしていた当社の製品群を、海外においても展開する方針です。グローバル化に対応するために当社自慢の「特異性の高い技術」、「開発スピード」、「社会的なニーズを先取りするマーケティング力」を駆使して一段の成長を目指します。厳しい市場環境の中で闇雲な拡大策をとるつもりはありませんが、当社の強みを活かした着実な戦略で企業価値、株主価値の向上を図ってまいります。

**Q 株主還元策についてお聞かせください。**



**A** 株主の皆様には、当社株式を中長期的なスタンスでご保有していただき、末永いご協力を賜りたいと願っております。そのため株主の皆様への利益還元についても、長期的に安定した配当水準の維持に努めることを基本方針としています。また、自己株式の取得も地道に実施し、資本効率の向上を図っています。当期につきましても、いち早く利益成果の配分を実現すべく、2008年9月30日を基準日とした中間配当を1株当たり5円と決めて実施し、年間配当についても期末の5円配当を予定し、年間10円の1株当たり配当金を予想しております。

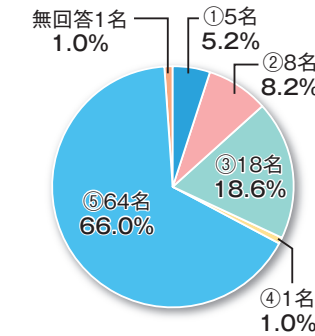
第63期株主通信のアンケートでは、株主の皆様から多くの貴重なご意見・ご感想をいただきました。ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。  
いただいたご意見を誠実に受け止め、今後のIR活動の参考とさせていただきます。

**ご回答者数 97名** 2008年3月末の株主様771名中、97名の株主様からご回答をいただきました。(回答率12.6%)

アンケートの集計結果

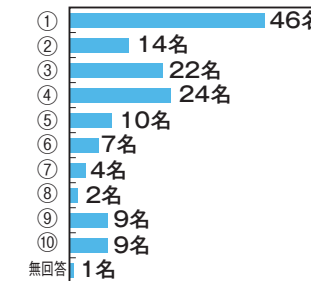
**Q1 当社株式をいつ頃ご購入されましたか。**

- ① 半年以内 ② 1年以内
- ③ 2~3年 ④ 4~5年
- ⑤ 5年以上



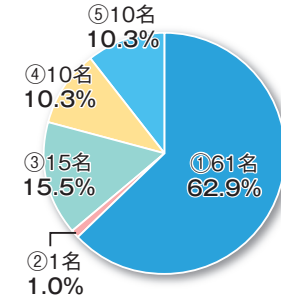
**Q2 当社株式の取得動機をお教えてください。(複数回答可)**

- ① 将来性 ② 業績
- ③ 配当 ④ 証券会社の勧め
- ⑤ 事業内容 ⑥ 株価
- ⑦ 経営方針
- ⑧ 新聞・雑誌などのコメント
- ⑨ 贈与・相続 ⑩ その他



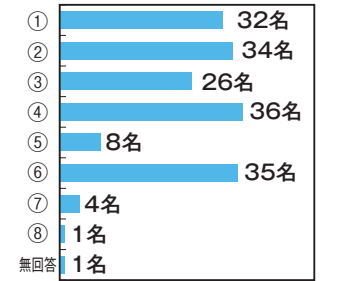
**Q3 当社株式の今後の保有方針等をお教えてください。**

- ① 中長期的に保有する
- ② 短期で考えている
- ③ 買い増しする
- ④ 投資収益に応じて売却する
- ⑤ 未定



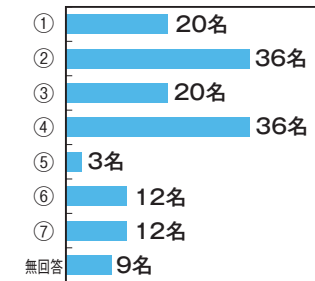
**Q4 普段利用している情報収集の媒体は何ですか。(複数回答可)**

- ① 証券会社
- ② インターネット
- ③ 事業報告書 ④ 四季報
- ⑤ 投資情報誌
- ⑥ 一般新聞・雑誌・テレビ
- ⑦ 知人等から ⑧ その他



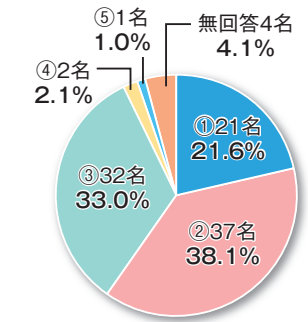
**Q5 今回の株主通信でご興味を持たれた内容をお選びください。(複数回答可)**

- ① マナックとは
- ② 社長インタビュー
- ③ セグメント情報と各事業の特徴
- ④ マナック60年の歩み
- ⑤ 財務ハイライト
- ⑥ 財務諸表 ⑦ 会社情報



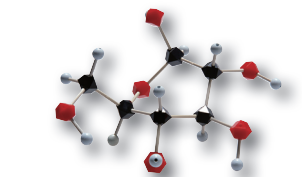
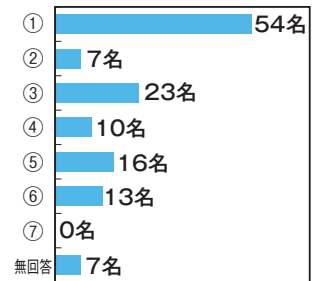
**Q6 今回の株主通信をどのようにご評価されますか。**

- ① 大変満足している
- ② ある程度満足している
- ③ 普通
- ④ あまり満足していない
- ⑤ 不満である

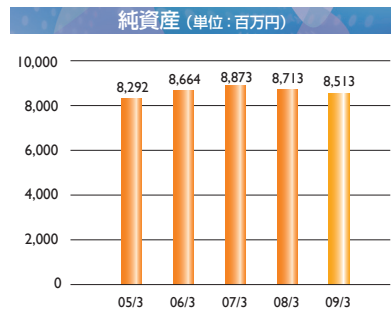
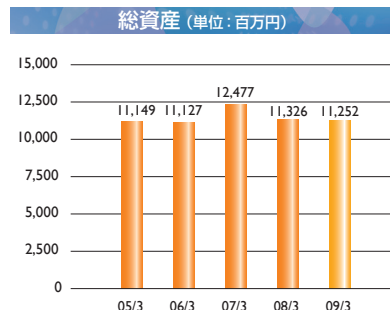
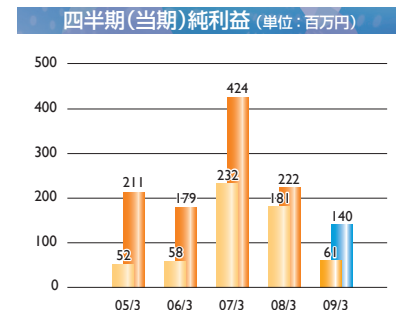
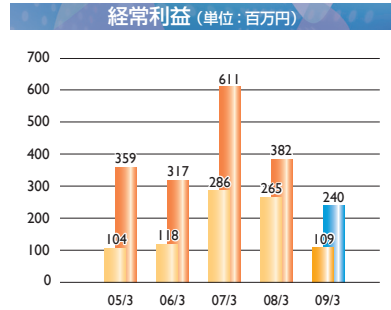
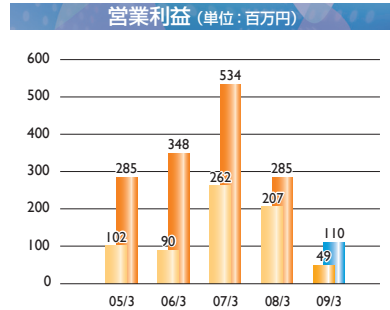
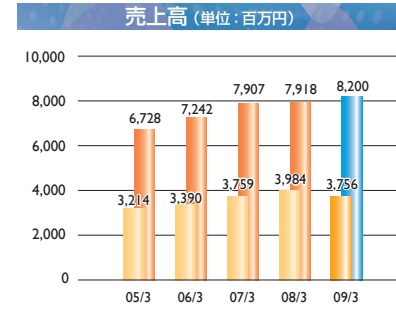


**Q7 当社のIR活動として何を充実させてほしいですか。(複数回答可)**

- ① 株主通信 ② 決算短信
- ③ ホームページ
- ④ 株主総会
- ⑤ 会社説明会
- ⑥ 証券会社を通じた情報提供
- ⑦ その他



■ご協力いただきありがとうございました。



■ 第2四半期(累計) ■ 通期 ■ 通期(予想)

当第2四半期の事業状況

当第2四半期における化学業界は、特に原・燃料の高騰に伴う影響や在庫調整とみられる需要減退から厳しい展開となり、ファインケミカル分野においても大幅な収益の悪化傾向にあります。一方、電子材料は先端分野を中心に相対的に堅調ではあったものの、先行きの需要動向には不透明感が強く感じられるようになってきました。また、世界的な景気減速の影響を受け、高機能樹脂をはじめとした高付加価値製品の需要にも減少傾向がうかがえ、収益面における採算状況が極めて厳しくなっています。

このような環境のもと、当社は、高騰する原・燃料価格を製品売価へと転嫁することを進め、生産面においては、徹底した生産効率を追求し、原・燃料のコスト上昇分の吸収に努めています。一方、開発面においては、ユーザーからの要求に対し、スピード感をもった対応に注力してまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は37億56百万円、営業利益は49百万円、経常利益は1億09百万円、第2四半期純利益は61百万円となり、原・燃料の値上げ分を、第2四半期において製品に一部転嫁することが実現し、利益面では、年初計画を維持することができました。

四半期貸借対照表(要約) (単位: 千円)

資産の部	当第2四半期末 2008年9月30日現在	前期末 2008年3月31日現在
流動資産	7,217,137	7,081,858
固定資産	4,035,195	4,244,286
有形固定資産	2,920,955	3,089,812
無形固定資産	6,935	8,329
投資その他の資産	1,107,304	1,146,145
資産合計	11,252,332	11,326,145
負債の部		
流動負債	2,187,517	2,137,270
固定負債	551,382	475,604
負債合計	2,738,900	2,612,875
純資産の部		
株主資本	8,437,290	8,596,683
資本金	1,757,500	1,757,500
資本剰余金	1,947,850	1,947,850
利益剰余金	4,972,851	4,978,709
自己株式	△ 240,910	△ 87,379
評価・換算差額等	76,141	116,586
その他有価証券評価差額金	76,141	116,586
純資産合計	8,513,432	8,713,269
負債及び純資産合計	11,252,332	11,326,145

POINT

**財政状態**  
当第2四半期会計期間末の総資産は112億52百万円となり、前会計年度末に比べ73百万円減少しました。また、負債合計は27億38百万円となり、前会計年度末に比べ1億26百万円増加しました。純資産は、85億13百万円となり、前会計年度末に比べ1億99百万円減少しました。この結果、自己資本比率は、前事業年度末の76.9%から75.7%となり、1.2%減少しました。

四半期損益計算書(要約) (単位: 千円)

	当第2四半期(累計) 2008年4月1日より 2008年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2007年4月1日より 2007年9月30日まで
売上高	3,756,215	3,984,558
売上原価	3,010,684	3,114,493
売上総利益	745,530	870,064
販売費及び一般管理費	695,555	662,224
営業利益	49,975	207,839
営業外収益	65,226	60,090
営業外費用	6,020	2,460
経常利益	109,180	265,469
特別利益	10,058	28,369
特別損失	19,304	3,716
税引前四半期純利益	99,933	290,121
法人税、住民税及び事業税	45,062	101,515
法人税等調整額	6,388	7,204
四半期純利益	61,259	181,401

四半期キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位: 千円)

	当第2四半期(累計) 2008年4月1日より 2008年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2007年4月1日より 2007年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	197,552	160,349
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 129,560	△ 439,388
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 274,410	△ 94,246
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△ 135
現金及び現金同等物の増減額	△ 206,411	△ 373,419
現金及び現金同等物の期首残高	2,222,532	2,416,406
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,016,120	2,042,986

**キャッシュ・フローの状況**  
営業活動によるキャッシュ・フローは1億97百万円の収入となりました。これは、主に減価償却費、仕入債務の増加によるものです。投資活動に使用された支出は1億29百万円となりました。これは、主に有形固定資産の取得によるものです。財務活動によるキャッシュ・フローは借入金の返済、自己株式の取得及び配当金の支払等により、2億74百万円の支出となりました。